

研修報告書

1. 研修報告書
2. 質問項目についての報告

氏名	舘野瑞希		
所属大学	横浜国立大学	学部	理工学部
学科	機械・材料・海洋系学科	学年	学部 4 年
専門分野	機械工学(流体力学)		
派遣国	北マケドニア	Reference No	MK-2023-SK-10
研修機関名	3D Project Studio	部署名(任意)	
研修指導者名(任意)		役職(任意)	
研修期間	2023 年 10 月 09 日 から 2023 年 11 月 10 日 まで		

1. 研修報告の概略を1 ページ以内にまとめてください。

研修について、インターンで行ったこと・マケドニアでの日常生活・週末の思い出についてまとめる。総括として、今回の研修は今後の人生・キャリアを考えるうえで様々な考えを得ることのできた一か月だった。

研修では、専攻の機械工学とは少し異なる分野ではあったが、ソフトの使い方等をレクチャーしていただき、業務を行うことができた。また、サッカーの試合・国際会議など普段ではなかなか見ることのできないものを見たり体験することができ、とても貴重な時間となった。インターンを通して、海外で働くこと・海外(マケドニア)の人々の働き方、人生における仕事の位置づけというものを知り、考えることができた。

マケドニアでの日常生活に関しては、IAESTE Macedonia のメンバーの支援が手厚く、毎日安全かつ楽しく過ごすことができた。毎週のミーティングをはじめ、様々なイベントに積極的に参加することでメンバーとの交流を深めた。また、買い物・交通機関の利用に関しても、自分ひとりで大きな問題なく行うことができた。私自身の英語力は高くなかったものの、マケドニアの人々がお互いを理解しようというスタンスでいつもコミュニケーションをとってくれたからだと思う。

週末は、マケドニア国内の様々な場所に観光に行った。大抵は一人で行ったが、旅先で出会った人との会話・食事は一生ものの思い出となった。お金が足りなくなったり、パスポートをなくしたりと様々なハプニングもあったが、すべて終わった今となってはいい思い出だ。

また、マケドニア滞在中に二人の日本人に会うことが出来た。彼女らとの出会いが私の今後のキャリアを考えるうえで重要だった。

たった一か月という短い期間ではあったが、初めて国際線の飛行機に乗ること、言葉も文字もわからない土地で一人で過ごすこと、周りの人とコミュニケーションをとること、様々な価値観に触れること等様々な経験ができた。この一か月で得たものが今後の自分の人生において様々な場面で役立つと感じている。

2. 研修内容および派遣国での生活全般について写真を含めて 4 ページ程度で具体的に報告してください。

(研修日誌、テクニカルレポートや単位認定用のレポート等)

【研修】

動画の撮影、編集を行う 3D Project Studio という会社で研修を行った。社員が6名と、とても小さく、アットホームな会社だった。毎日9時に出勤しても全員がそろうのは大体 10 時頃でそれまではみんなでコーヒーを飲みながらおしゃべりをしていた。

撮影に行く日は、車にたくさんの機材をのせて会場に向かった。研修期間中は、サッカーの試合、You Tuber の撮影、国際会議の中継に行くことができた。そこで私はカメラワークの切り替えを行った。また同時通訳をしている様子等もみることができ、普段何気なくみているテレビや You Tube の動画がどのように作られるかを知ることができた。

編集は AdobePremirePro というソフトを用いて行った。私は、YouTuber の動画の編集と、過去に行ったイベントの概要を短い動画にまとめるという二つの作業を行った。

YouTuber の動画についてはマケドニア語が理解できないため、どの部分で区切ればよいのかが難しかった。一方ソフトについては初めて使ったが、社員さんにレクチャーをしてもらい編集の方法を習得した。この編集した動画は現在、実際に YouTube で見ることができる。

イベント概要を短くまとめる作業はとても面白かった。BGM に合わせて動画が切り替わるように設定したり、イベントが始まって盛り上がる、最後お客さんが帰っていくという一連のストーリーをつくるのが自分のセンスも問われる部分で難しさもあったがテンポよく仕事が進められて楽しかった。今後も自分の PC やスマートフォンで動画の編集をしてみたいと感じた。



図 サッカーの試合場



図 編集作業の様子

また、働き方という点については、毎日 16 時には全員退勤していた。金曜日は週末だからという理由で 15 時過ぎに退勤した。仕事中は何度も「リラックス。もっと肩の力抜いて気軽にやって！」と言われつづけた。マケドニアは確かに EU にも加盟していないし、日本よりも発展しているとは言えない国だ。しかし、仕事のとらえ方、働き方が日本よりも楽しそうだった。経済的に裕福であることと、幸せであることはイコールじゃないのかもしれないと思った。

【日常生活】

基本的に日本より、良くも悪くもテキトーな国だった。バスは時間通りに来ない、街中はたくさんゴミ箱があるにも関わらずゴミが散乱している、教会の入場料は「今日は強風だから無料」になる、街中の信号機はよく壊れている等。そのテキトーさでも国として成り立っていることが私にとってはとてもおもしろかった。物価は日本よりも安く、いただいたお給料で 3 食 + 出勤前のコーヒー、夜のお酒まで十分に楽しむことが出来た。

マケドニアでは「ヨーグルト」はドリンクタイプのことを指すことに驚いた。朝食では、ブレックといわれるパイ生地の間にお肉やホウレンソウ、チーズを挟んだ食べ物とヨーグルトの組み合わせがとても

気に入った。

お昼ご飯や夕飯は、会社の近くにあるお惣菜屋さんで買うことが多かった。そのお店で伝統的な料理をいくつか味わうことができた。また、ライスと呼ばれる料理は、日本米によく似たお米を使ったピラフのようで、お米が恋しくなったときによく食べた。

【観光】

週末には、マケドニア国内の様々な場所に観光に行った。Skopje 市内の Vodno, Matka をはじめ、Stobi や Ohrid, Bitola に行った。首都 Skopje からバスで1時間足らずで壮大な自然に触れることができた。Vodno へのハイキングは IAESTE のメンバーと一緒にいった。山頂でお互いの国のお菓子を交換して食べたのはいい思い出だ。

Ohrid では世界遺産に登録されている教会を見たり、Ohrid 湖のツアーに参加したりした。名物の Ohrid 湖のマスを食べたかったのだが、観光地価格で一尾 3000 円ほどだったのであきらめた。

観光に行く際はバスを使ったり、電車を使ったりした。バスは日本であれば確実に捕まるようなスピードで運転し、運転手は電話をよくしていたが、時間通りに運航していたため使いやすかった。電車はおそらく中国が出資したものと思われ、車体はきれいだった。しかし、車体の外側は全面にスプレーでの落書きが施されていた。Stobi からの帰りの電車は混雑していてさらに空気の循環が悪く、体調が悪くなる人が数名いた。運航されている便がとても少なかったが、運賃はとても安かった。

【マケドニアで出会った人々】

今回の研修で最も素敵だったのは、現地の人との出会いだと思う。IAESTE のメンバー、マケドニアの日本大使館で派遣員として働いている大学4年生の日本人、Ohrid で出会った日本人、イギリス人の方は特に印象に残っている。

IAESTE のメンバーは英語力の低い私の話を根気強く聞いてくれた。また、毎週のミーティングのあとにはバーと一緒にいこうと誘ってくれ、そこで一緒にお酒を飲みながらたくさん話をした。日本の文化、マケドニアと日本の教育や就職活動の違いなども話した。海外では自分の大学での専攻が重視されるが日本では専攻とことなる仕事に就くことも多いという話はとても驚かれた。



図 IAESTE Macedonia のメンバー

大使館で働いていた大学生は同じ年でも海外で活躍していることを痛感させられた。英語ができて当たり前の世界で現地の人と交渉をしたりする彼女の姿はとてまかつこよかった。週末には一緒に買い物に行き、お互いの今後の人生の話をした。留学や派遣員として働くことで日本に留まらない視点で自分の人生を考えている彼女に影響を受けた。



図 マケドニアの日本大使館で派遣員として働く友人

Ⅱ. アンケート

以下の質問にお答えください。

A. 研修内容について

1. 研修内容は、O-form に記載されていたとおりでしたか。(はい・☒いいえ)
「いいえ」と答えた場合、どこが違っていたか具体的に記述してください。
2. 就業時間は、O-form に記載されていたとおりでしたか。(はい・☒いいえ)
実際の就業時間： 1日(8)時間
1週(5)日間;(月)曜日から(金)曜日
3. 研修先から支払われた“滞在費”は、現地通貨で週いくらでしたか。“滞在費”の内訳と日本円に換算した金額をあわせて書いてください。
週単位： 現地通貨(4,500MKD) 日本円(11,589 円)
全支給額： 現地通貨(22,500MKD) 日本円(57,946 円)
4. 研修先から支払われた“滞在費”は、生活するのに十分なものでしたか。(はい・☒いいえ)
「いいえ」と答えた場合、何にいくらぐらい足りませんでしたか。
5. “滞在費”はどのように支払われましたか。(例：現金手渡し・銀行振込・小切手等)
IAESTE Macedonia 事務局へ銀行振込, IAESTE から現金手渡し
6. 研修中の滞在先について、宿舍の形態、周辺地域の環境や治安について詳しく記述してください。
Apartment. 一人暮らし.
周辺は住宅地でスーパーやパン屋・カフェ等も歩いて 5 分圏内にあった.
治安も悪くない.
7. 研修中の滞在先(宿舍)から研修地までの通勤について書いてください。(交通の便・手段・費用等)
徒歩で 40 分.
バスで行くこともできるが、2つのバスを乗り換えていく必要があった. バスは一回の乗車で 30MKD.
多くの場合は、バスに一回乗って、そのあとは徒歩という方法で会社に行った.
8. 研修先での職場環境(人間関係)は良かったですか。(はい・☒いいえ)
「いいえ」と答えた場合、不満だった点を書いてください。
9. 研修において、何か特別なプロジェクトに参加しましたか。(はい・☒いいえ)
「はい」と答えた場合、参加したプロジェクトの内容を記述してください。
10. 研修において、あなたの語学力(O-form に記載されている Required Language)は客観的に見て十分だったと思いますか。(はい・☒いいえ)

B. 生活について

1. 研修以外の時間(勤務時間後や週末)はどのように過ごしましたか。
IAESTE Macedonia のメンバーとごはんに行ったりした。
週末は Macedonia 国内の観光地に行った。大抵は一人で行った。
2. 研修地で IAESTE 事務局主催の催しに参加しましたか。(はい・いいえ)
「はい」と答えた場合、参加したプログラムの内容とあわせて感想も書いてください。
IAESTE meeting に毎週月曜に参加した。Meetingの内容はマケドニア語だったので理解できなかったが、meeting 後におしゃべりをする時間があり、その時間がとても楽しかった。
また、Halloween party に参加した。みんな思い思いの仮装をして参加していた。
3. 派遣国で、その国の伝統文化に触れるような機会はありましたか。(はい・いいえ)
「はい」と答えた場合、どのようなものに参加したか、感想も詳しく書いてください。
食文化。ガーリックのペーストがかなりきつかったが、それ以外のものはおいしく食べることができた。
4. 派遣国の印象を、現地へ行く前と行った後のイメージの変化も含め、詳しく書いてください。
行く前は正直、アレキサンドロス大王くらいしか知らなかった。しかし、行ってみると歴史的に重要な国であることを知った。またマケドニアの人々のあたたかさに触れることができた。
5. 研修国で、日本のことについて質問をされましたか。(はい・いいえ)

C. IAESTE との連絡

1. 研修出発前、手続き上何か問題がありましたか。(はい・いいえ)
「はい」と答えた場合、問題点を詳しく書いてください。
2. 派遣国への入国時に何か問題がありましたか。(はい・いいえ)
「はい」と答えた場合、問題点を詳しく書いてください。
3. 派遣国到着後、宿舎ならびに研修先へ自分ひとりで行きましたか。(はい・いいえ)
「いいえ」と答えた場合、誰と行きましたか。
IAESTE Macedonia のメンバー
4. 3で「派遣国の IAESTE 事務局」と答えた場合、IAESTE 事務局はどのように関与していましたか。
出発前から連絡を取っていたなど、分かる範囲で具体的に書いてください。
出発数日前にメールで IAESTE Macedonia の案内のかかれた PDF 資料をもらった。また What's App で連絡を取った。
5. 研修初日、研修先の受入準備体制は万全でしたか。(はい・いいえ)
「いいえ」と答えた場合、何に不備があったか書いてください。
6. 研修前から研修期間中、派遣国の IAESTE 事務局は、どのように関与していましたか。
研修期間中、問題が起こったときに適切な対応もしくは助言をしてくれましたか。
メンバーがイベントの開催を教えてくれたり、居住についての質問等も丁寧に答えてくれた。

D. その他

1. 今回の IAESTE 研修を通して、最も良かったと思うことを書いてください。
2. 研修予定内容に関して事前に勉強をして行きましたか。(はい・いいえ)
「はい」と答えた場合、何を勉強し、どう役立ったかを書いてください。
「いいえ」と答えた場合、事前に勉強をしなかった理由を記述してください。
研究室が忙しく、画像処理等の勉強を新たに作る時間がなかったため。
3. 研修終了時に、受入企業に研修レポート(Technical Report, Training Diary を含む)を提出しましたか。
(はい・いいえ)
4. 日本出国前に準備しておいたほうが良いと思われることを書いてください。
英語のスピーキング, 発音.
受入国の簡単な挨拶
5. 所持金やクレジットカード等、いくら・どのように持参されたか、また準備が十分であったかを書いてください。
クレジットカードとプリペイドカード(日本でチャージ, 両親が滞在中も追加のチャージを行ってくれた. 最初 5万チャージした)
クレジットカードが学生用で利用上限が厳しかったため, 滞在の途中でお金がなくなりそうになった。
6. 日本から持参した物の中で、特に役に立ったもの、あるいは必要なかったものがあれば書いてください。
日本のお菓子等は現地の人とのコミュニケーションの種として使えた。
7. 来年以降、あなたが派遣された国へ、研修生として派遣される候補生に向けての助言を書いてください。
(研修のことだけでなく、語学面や生活面など、気が付いたことはできるだけ詳しく)
あまり日本では有名じゃない国だからこそ、その国を知ろうとする姿勢が重要. 言語に関しては、英語ができれば生活できる. ただマケドニア人はネイティブではないため、あまり難しい表現をすると伝わりにくかったりする。
水道水は飲める。
IAESTE のメンバーがとても親切なので、困ったことは彼らに聞けば解決する。
8. 研修前と研修後で、自身の専門分野や国際理解に対する考え方に、どのような変化がありましたか？
今まではなんとなく将来海外で働きたいくらいだったが、今回の研修を通じて、絶対に海外で活躍できるエンジニアになろうと思った. というのも、エンジニアは世界共通で仕事ができると思ったし、実際に観光にいったときにイタリア人のエンジニアにたまたま会う機会があった. その人の話を聞いてエンジニアとして世界で働くことが私のなかで目標になった。
9. 今回の研修に参加したことで、海外への留学に興味を持ちましたか？すでに興味を持っていた方は、その気持ちに変化はありましたか？
持った. 周りの人にも留学やインターンをぜひ行って、いろんなものを感じてきてほしいと思った。
10. 今後 IAESTE での研修を考えている学生の方々へ、メッセージがあればお書きください。

海外で働くことがとても楽しいと思えるか、絶対に日本で働きたいとなるかは、行ってみないとわかりません。学生のうちにそれを実感できる IAESTE の研修はとても良い仕組みだと思います。ぜひ自分の知らない世界や自分を見つけに、研修に申し込んでみてください。